

はじめに

本学の FD 活動は、平成 20・21 年度は FD・自己点検評価委員会、平成 22 年度からは FD 委員会のもとで行ってきたが、平成 25 年 5 月に新学長のもとで委員会の構成の変更があり、今年度は FD・点検評価委員会として取り組むことになった。本学は、これまで FD 活動として、授業評価・教育評価アンケート（平成 20 年度～）、FD 講演会・研修会（平成 21 年度～）、オープンクラス（平成 23 年度～）などを実施し、授業内容や方法の改善に組織的に取り組んできた。今年度もこれまでの活動を継承・発展させる形で行ったが、以下のような改善・変更点があった。

1. 「学生による授業評価アンケート」では、本学の教育目標である 6 つの社会人基礎力についての質問項目と授業外の学修時間についての質問項目を追加し、他の質問項目の見直しも行った。さらに、授業評価アンケートの結果が授業改善にいかされていることが学生に十分伝わっていなかったため、授業担当教員がアンケート結果のフィードバック・コメントを書いて、学内で公開することにした。
2. 大学院教育の改善のため、昨年度までは学部と同様に個々の授業で授業評価アンケートを行っていたが、少人数であるゆえの問題があったため、今年度は「大学院生による教育評価アンケート」として、全体的な教育環境を問うアンケートに変更した。
3. 「FD 研修会」は、昨年度までは 1 つの研修会しか開催していなかったが、今年度は、教員の興味や時間の都合により、4 つの研修会のいずれかに参加する形態に変更した。
4. オープンクラスについては昨年度まではいくつかの授業のみの限定された公開であったが、今年度は、前・後期のそれぞれ 2 週間を「オープンクラス・ウィーク」として、原則すべての学部の授業を公開することとした。
5. 「全学教員研修会」は、昨年度まで行っていた学部学科ごとの話し合いの時間をなくし、全学でグループ・ディスカッションを行った。

冒頭で述べたように、本委員会は今年度から FD・点検評価委員会となり、FD だけでなく点検評価も行わなければならなくなった。特に、本学では再来年度に認証評価を受審するにあたって、点検評価活動に力を入れなければならない時期である。そのような状況であるので、本年度は必ずしも十分な FD 活動を展開できたとはいえない。本報告書をご覧いただき、本学の FD 活動に関してお気づきの点があれば、忌憚のない意見を頂戴できれば幸いである。

2014 年（平成 26）年 3 月

京都ノートルダム女子大学
FD・点検評価委員会
委員長 廣瀬 直哉